

河田信教授定年退職記念号によせて

経営学部長 宮 崎 信 二

河田信教授は、2012年3月末をもって定年を迎えられ、名城大学を退職されることになりました。ここに名城大学および商学部・経営学部に対する先生の御貢献に感謝の意を表する次第です。

先生は、1964年慶応大学法学部を卒業後、帝人製機(株)を経て1999年4月に名城大旧商学部教授(管理会計論担当)として着任されました。また、大学院商学研究科では、管理会計研究、実践管理会計研究、会計学研究指導を担当されて、多くの有為なる人材を育てられました。特に、2001年4月から4年間大学院経営学研究科の主任教授、2007年4月から2年間大学院経営学研究科長を歴任され、創設もない大学院経営学研究科修士課程における「ものづくり・経営システムコース」の発展ならびに大学院経営学研究科博士後期課程設置に際して多大なる貢献をなされました。学部および大学院における先生のバイタリティーあふれる教育・研究活動は高く評価されるどころです。学生の自主的な学習活動を支援し学生の力量を引上げ、マネジメントを探究する若き研究者の育成に多大な情熱を傾け貢献されました。

一方、学外にあっては、日本管理会計学会において役員を務められています。また、河田教授が代表となり設立されました(株)名城プロセスマネジメント研究所では、経営プロセスの診断と再設計を中核とするコンサルティング活動等を通じて、社会貢献度の高い産学協同研究活動を行い、その成果は企業等の組織体活力の向上に貢献しました。なかでもトヨタ自動車やアジア生産機構、NECなどにおける活動は、社会的に注目を集めています。さらに、名古屋大学・名古屋市立大学・名城大学の3大学の経営学・経済学研究科が中心になり、また地域企業の協力も得て、『国公私ジョイント教育・研究機構』を設立し、欧米の“日本研究”に對峙し得る“日本発の日本的経営理論研究”を推進され、河田教授はこの『国公私ジョイント教育・研究機構』設立の中心メンバーの一人として活躍されました。

河田先生の「日本発のものづくりを生かす経営理論」の研究成果は、『トヨタシステムと管理会計』、『ジャストインタイム経営入門』の著書の刊行や多数の論文・学会発表によって示されています。さらに先生は「日本発のものづくりを生かす経営理論」を中国・台湾等で講演され、国際的にも高い評価を受けられています。

ここに河田先生の名城大学での研究、教育、行政に対するご苦労とご功績に心から感謝し、定年退職記念号を刊行し、先生に捧げたいと思います。今後は、なにとぞ健康に十分留意されて、これまで以上にご活躍されることを祈念し、定年退職記念号によせる言葉とさせていただきます。